

看取り難民について

日本人の平均寿命は現在男80歳、女87歳位ですが、病気のうちすべての癌がなくなっても平均寿命は3歳しか伸びないと言います。ほぼすべての病気が無くなっても平均寿命は6~7歳しか伸びないと言います。つまり皆いつかは亡くなります。

つまり利用者の方々はスタッフの皆さんよりは早く亡くなり易いとは言えますが、それぞれの方の希望や生きがいは量も質も皆さんと変わりません。

以前にもお話致しましたが、人は死ぬ直前でも希望は持っていますし持ち得ると言います。不審に思う方は樋野興夫先生の癌哲学外来というホームページをご覧頂ければ分かります。長く生きようが短く生きようがその軽重は無いと言うことです。

私たちの理念の尊厳・安心・満足の必要性のある所以です。また終末期（人生の最終段階）リハという言葉のある所以でもあります。

日本は少子高齢社会のためにこれから亡くなる方は年々増えていきます。10年後には年間160万人が亡くなると言われますがそのうち47万人（ほぼ3割）が看取り難民になりかねないと言われていています。

前橋市も人口は今年5月時点で約34万人（33万8千人）から10年後は30万人（9割弱）に減ると言われます。このまま行くと前橋市でも年間1000人以上が看取り難民に成りかねないとも言えます。私たち老健施設も「看取り対応」そして「終末期リハ」もより良いものにしていく必要性のある所以です。

「多職種協働」即ち、話合い3原則：①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞く。②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で！ ③正解は一つではないことを自覚して自制する。そしてハウレンソウ（報告・連絡・相談）を徹底することでより良い介護を目指しましょう。

老人保健施設一羊館の理念

利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。

私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。

私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。

